

廿日市市総合計画審議会 第1回会議録（要点）

日時：令和6年7月25日（木）18時半～

場所：廿日市市役所7階会議室

1 開会

2 市長あいさつ（松本市長）

- ・総合計画は市の最上位計画であり、本市のまちづくりの指針である。
- ・この度、ご審議いただく総合計画は、令和8年度から令和17年度までを計画期間とし、令和7年度中の策定を目指している。
- ・令和7年度までとなる現在の第6次廿日市市総合計画では、「市民ひとりひとりが幸せに暮らせるまちづくり」を基本理念に、目指す将来像である「挑戦、豊かさと活力あるまち、廿日市」の実現に向け、暮らしを守る、人を育む、資源を活かす、新たな可能性に挑む、この4つの方向性を設定し、まちづくりを進めている。
- ・総務省が今年1月に発表した住民基本台帳の移動報告において、広島県が3年連続で全国最多の転出超過となるなかで、本市は9年連続の転入超過であった。
- ・引き続き選ばれ続け市民が幸せを実感できるウェルビーイングの高いまちを目指して、新たな行政課題への対応や次世代を見据えたまちづくりに取り組んでいく。
- ・皆様のお立場で、ご経験をもとに忌憚のないご意見をいただきますようお願いする。

3 委員紹介

委員を一人ずつ紹介。

4 会長選出

会長に山川委員が選出された。

【山川会長】

先ほど事務局から説明があった通り第2期総合戦略を担当した。そのご縁で今回も引き続き担当する。

前回担当した時は人口減少が一番の焦点で、そうした中、都市間競争が煽られるようなニュースや方針も聞かれ、ややもすれば人の取り合いにもつながることを念頭に置いたところもある。しかし、10年経過した現在、人の取り合いや都市間競争というよりも、共存的な競争、つまり、共存する各都市がそれぞれに魅力化することを目指していかなければ難しい10年の変化があったと思っている。都市と人との関係性についても、人口の絶対数が限られている中で、皆さんのそれぞれの思いを尊重し、住みたいところ、ふるさとと思うところ、ファンと思うところなど、ここがもう少し良くなればいいなと思うところなど様々なあり方で関係を切り結んでいくという視点もあると思う。

廿日市市内においても地域間で共存的な関係を持ちながらそれぞれのエリアの特徴を磨いていく、そのなかで市民一人ひとりが幸せになればという気持ちを持って今回の総合計画策定に取組めればと思っている。

皆さんと一緒に、これから10年先の事を考えつつ今の幸せについて審議していきたい。

5 諮問

市長から会長に諮問書が手渡された。

6 職務代理者の指名

山川会長から会長職務代理者に福田委員が指名された。

【職務代理者 福田委員】

前回の計画づくりにも関わっていた。それからあっという間に時間が経過したと感じている。先ほど山川委員よりご説明があったが、前回の時から廿日市市には、「都市もあり、海もあり、山もあり」と認識している。それらをもっと使えるのではないか、活かせるのではないかという思いをずっと持っている。そういう意味で今回も何かお手伝いができることがあればと参加させていただいている。宜しくお願いする。

7 議題

◎事務局説明

(1)次期廿日市市総合計画の策定方針について（資料3）

◎ 各委員質問等

委員

今後の進め方として、ワークデザイン型と現状改善型があると思うが、10年前にワークデザイン型でこの計画を立てられ、5年目のマイルストーン、今回のマイルストーンでそれぞれ評価されていると思うが、それはいつ頃出てくるのか。

事務局

11月下旬に予定している第3回の審議会において、現状計画の評価、振返りの説明を予定している。

委員

分かりました。

もう1点、P.6の③地域会議について、佐伯、吉和、宮島の3地域となっているがこの意図を説明して欲しい。

事務局

ひとつ目は廿日市市の人口構成として、廿日市地域、大野地域でおよそ9割を占めている。全体でアンケート調査をおこなった際、少し意見が拾いにくいのが、吉和、佐伯、宮島の3地域である。

また、まちづくり市民アンケートは平成28年度から毎年実施しているが、「住みやすさ」という点においてこの3地域は廿日市、大野地域より低い状況にある。大野地域においても西エリアは同じような状況なので大野支所と連携しながら、アンケート調査やインタビュー調査を行い、課題やニーズを把握したいと考えている。

委員

先ほど、「転入者が非常に多い、住んで良かった」という説明があったが、日本全国津々浦々人口減のなか、どういう状況なのか補足説明して欲しい。

事務局

転入増の内訳については、30代、40代および0～4歳の転入が多くなっている。このことから、子育て世代の転入が続いていると推測している。転出は10代の後半から25歳までが多いのが現状である。

会長

「暮らしやすさ」については、市民アンケートの報告のところでもう少し詳しくご説明
いただきたい。

委員

アンケートを見たが、大野地区も東部と西部で状況が違ふし、廿日市も原、宮内、吉和
とで違ふ。例えば、「買い物の不便さ」では店舗との距離が影響するので、大変とは思
うが、その辺りまでを区分してデータを出していただくことができればお願いしたい。

会長

佐伯、吉和、宮島地域以外にも高齢化、過疎化が進んでいる個別の地域もあろうかと思
うので、どの地域を対象にするかどうか含め検討課題として預からせていただければと考
える。

会長

スケジュールのP. 7で、令和6年度の9月、12月に市民参画が集中しているが、ここ
で聴取された意見が反映されるのは基本構想までである。令和7年度、ある程度計画が出
来上がった後も、どのような形で総合計画を実現していきたいか、いわゆる社会への実装
に向けての市民参画の可能性（現在はパブリックコメントしかない）について、計画まで
ではなく、実行に対し市民の思いが反映できるよう、検討いただければと思う。

事務局

分かりました。

8 報告

◎事務局説明

- (1)令和5年度まちづくり市民アンケート結果の概要及び廿日市市の人口動態・予測について（資料4）

◎ 各委員質問等

委員

子育て世代が住みやすいという良い評価があり、それが転入超過につながっているという説明があった。住みやすい、子育てしやすいの回答は全市的には7.3%であり、子育てしやすいから転入してくることであれば、もう少し高くても良いのではないかという気がする。

事務局

現在子育て中の方は回答として「子育てしやすい」を選び、子育てから手が離れた方、子育てを経験していない年代の方は、この設問に対する回答が少なめになっているのではないかと推測している。次の総合計画においては、子育て世代に特化したアンケート調査を行い、傾向を分析したいと考えている。

委員

年代別では30代、40代が高いが、それ以外の年代でも高い数字がたくさんある。「子育て世代が住みやすいということにはなっていないのかな」と少し思ったので。

事務局

ここは9月にかけて行うアンケート調査のなかで分析していきたいと考えている。

委員

資料4のP.5「うるさい騒音がある」について23%という高い数字が出ているが、これはジェット機によるものか。そもそも何を引き出そうとしてこの設問を設定されたのか。

事務局

生活環境として住工混在等による騒音の影響を測るために、静かな住環境という視点から設定している。確かに大野地域は突出して高くなっているので、過去の推移などを確認したい。

委員

将来像として「挑戦！豊かさと活力あるまち はつかいち ～夢と希望を持って世界へ～」があり、「世界へ」という言葉が入っている。現在、姉妹都市としてニュージーランドやハワイがあるが、今後さらに世界に向けての具体的な計画はあるか。

もう1点、少子高齢化によって人口減少のなか、今後外国人労働力がポイントになってくと思う。アンケートを行った時、外国人の割合、外国人の住みやすいまちづくり等々もあったが、外国人とのトラブルも考慮すべき点だと感じる。その辺りについても説明いただきたい。

事務局

第6次総合計画後期基本計画において、「世界に羽ばたく人材の育成」という施策方針を掲げている。対象は子ども、意図は将来に夢と希望を持ち世界に羽ばたくというもので、これに関連する事業として国際的視野の拡大を掲げ、姉妹都市ニュージーランド マスタートーン市との交流事業などを掲げている。次期総合計画については前期の結果も踏まえどのように位置付けていくか検討したい。基本的には、子どもたちが世界に羽ばたけるように支援していきたいと考えている。

令和6年3月末時点での本市の外国人市民の人口は、1,646人でコロナ前に戻っている。国籍別では、ベトナムの613人が最も多く、フィリピン244人、インドネシア109人と続いている。今年の4月に外国人の相談センターを設置し、国際交流協会の方と連携して活動している。産業分野については、廿日市商工会議所様に事務局を担っていただいている産業まちづくり委員会において、働き手、人材不足の課題に対し、施策を検討されている。合わせて、居住後の共生についてももしっかり検討していきたいと考えている。

会長

今回は市民対象のアンケートになっているが、観光という側面からは交流人口のニーズなども総合計画に入れるのか、入れないのか、これも一つの視点になりそうな気がする。ご専門である委員から、「こういったデータが必要」みたいなことがあれば教えていただきたい。

委員

観光による地域振興を考えた時、住民意識のみならず廿日市のファン（どういう方々が廿日市によく来てくれるのか、廿日市が好きなのか）という観点から、観光客含めこれら

の方々の声をどこかで把握できればと思う。

事務局

観光分野については、総合計画と同時に観光振興基本計画の策定を予定している。観光に特化した領域については、観光振興基本計画との連携を図りながら示していきたいと考えている。

会長

資料に記載されていないことについても、「この視点も必要ではないか」というご指摘も含め気づきがあれば、ご意見をいただきたい。

委員

中山間地域に移住して来られる方々に聞くと、この地域の環境を好まれて移住したという意見であった。計画中の新たな工業団地ができれば佐伯地域から非常に近く、この点を踏まえて計画を立てていただければと思う。

事務局

中山間地域の振興ビジョンを総合計画と合わせて策定予定である。浅原地区は移住も増え空き家バンクも活用され、交流センターには活気もある。地域の方と目標を共有化し、PRすべきところはしっかりとPRしていきたいと考えている。

委員

大野区長連合会では、各区長に対し、10年後に自区をどうしたいかアンケートを取っており、来月の区長会でまとめフィードバックすることとしている。トップには「住みたいまちづくり」を置き、キーワード（SDGs、コミュニティスクール、空き家対策、防災防犯）でまとめていこうと考えており、どこかにそのキーワードを残したいと考えている。

会長

エリア特性を生かしそれを応援する形でも総合計画になり得ると思う。それぞれの分野の専門のお立場からご意見があればお伺いしたい。

委員

廿日市市に唯一ある保健看護大学で、これからの人口構造、人口減、保健福祉を考え合わせると、地域の看護人材が全体として不足している。病院やクリニックなどプライマリ

一ヘルスケアで働く人材を大学としてどう輩出していくか、一方で学生は急性期病院への就職を希望している。これについて大学側も調整が必要で計画はあるものの、廿日市市のまちづくり（保健福祉）と連携できないものかと考えている。廿日市市の住みやすさや良さ（山間部、島、世界遺産がある）もありますが、保健・医療・福祉の働き場に若い人材を輩出していく取組み、そういう意味でのまちづくり視点があれば良いと思う。

委員

商工会議所はどちらかといえば市に近い立場で、市と協力してやっていくというのが基本である。

一番気になるのは住民の皆さんがトップに上げている交通問題である。広島市までの車通勤では1.5時間もかかり、宮島口の恒常的な交通渋滞など、これらは経済ロスにつながる。商工会議所も国、県に要望しているが、市もこの問題を真剣に考えないと結果、「動きにくい、働きにくい」となる気がする。この問題は早々に解決できるような問題ではないので、皆さんと知恵を出しながら解決していきたいと思う。

会長

職住近接（廿日市のなかで職を生む）の視点は先ほどから出ており、渋滞解消と合わせ職住近接の暮らし方を計画に反映することもありかと考える。

委員

地域を細かく見ていく必要があると感じている。廿日市、佐伯、吉和、大野、宮島では母数が大きく違うが、同じような比較分析で出てくる。実際には廿日市、大野もそれぞれ細分化されるし、限界はあろうかと思うが、今日の議論を聞き、個別に地域を見ていく作業が大事だと思う。例を挙げると、災害が発生した場合にどの地域のリスクが高く、どの地域のリスクは低いということについての分析である。

会長

総合計画は最上位計画であるため網羅的な視点を持ちつつ、廿日市らしさの視点も必要である。また、現状をどう打破するかということもあるが、10年後の未来を見据えた時に何が足りないのかという視点も確実に必要になってくると思う。

次回は「柱」を出していただけるということなので、そこから具体的な議論ができるのではと思っている。

また、次回は10年前との一番大きな違いの一つと認識しているDXについて広島県総務局デジタル県庁推進担当様からお話を頂ければと思う。

会長

ご質問のなかで「次回回答」としたものは、次回の回答とする。検討してほしいというご意見など、事務局がいったん検討するものについては、策定スケジュールの関係上、会長に一任させていただきがどうか。（異議なし）

第1回目の審議会は、以上で終了する。

9 閉会